

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク

2017年度事業計画書

期間: 2017年4月1日~2018年3月31日

I. 2017年度の組織運営計画について —NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク—

(1)ビジョンとミッションの確認

ビジョン —目指す社会像—

それぞれの強みや違いを活かし、繋がり合い、主体的に未来を創る行動に溢れるいきいきとした社会

ミッション —社会的使命—

若者の力を活かして、地域の課題解決/活性化を加速する

(2)2016年度の基本方針の実行検証と総括

上記のミッションの達成を図る為、2016年度の組織運営に係る基本方針として、以下の事項を設定した。

実行の検証を行い、2017年度の基本方針に活かしていく。

①従来の個人の地域づくりへの参画を継続しつつ、新たにアーリーステージ(創設間もない)のチームの強化とチームの力を活かした地域づくりを加速させ、より地域づくりへのインパクトを高めていく。

今年度、チームの力を活かしていくために、ソーシャルプロジェクト支援領域の充実を図った。事業初年度であったが、4,090,313円の事業収入となった。当会の持つ、チームビルディングノウハウや若者の力を取り入れた運営ノウハウ、プロジェクトマネジメントノウハウ等が、新しいチームや世代交代を抱えるチームのニーズに応えることができた。今後より一層の充実を図っていく。

②ビジョンの解像度を高めるための、会員全体とビジョンの策定を実施する。

ビジョンの策定については、スタッフ間での協議は行われたものの、会員全体に諮るところまでは持っていくことができなかった。ビジョンの解像度を上げていくことは、よい一層の訴求力と共感を生み出す上での必要性和会員全体との協議を経て決定していく方針は変わらないものの、次年度、理事会を中心に議論を進め、案ができたのち会員との意見交換を展開していくスケジュールを設定し、進めていく。

③更なる事業加速のために、個の責任感・主体性、チームとしての柔軟性と創造性を融合したプロジェクトチームによる実施体制の実現と運用。

7名体制となった事務局の事業推進においては、職員各自の力を最大化するだけでなく、チーム内協働によってそれぞれの力を掛け算にしていくことが必要である観点からもプロジェクトチームを組み、プロジェクト毎での判断と予算管理を行った。プログラム提供者等の拡大、充実は計れたものの、全体での予算管理の体制と時間を持つことができず、大幅な赤字を計上した。プロジェクトチームでの運営の意義と力は感じるものの、個々の職員がプロジェクト運営に関して、予算の認識の甘さと責任の所在の曖昧さであったことが課題として浮かび上がった。具体的には事業費だけを捉えがちで、管理費に関する予算を意識した運営が必要である。また、全体での4半期毎の決算確認を全体でできなかった。次年度の対策としては、各プロジェクトチーム毎のリーダーを中心に、予算の計上と執行を責任もって行うことと、4半期ごとに全体で予算確認をしていく。地域と若者のコーディネートに事業に携わり、またプロジェクト・事業支援を行う職員において、自身のプロジェクトマネジメントの力を上げていく必要がある。

【総括】機会提供や若者・チームの育成など、事業としての成果は成長したものの、組織運営の基盤である管理費のボリュームが増えた。また個々の職員の全体を見渡す力とプロジェクトマネジメント能力とのより高い深化が求められている。チーム内協働の可能性を広げて、多様な事業パートナーとの事業運営の成果をより一層高めていきたい。

代表理事 岩井俊宗

(3)2017年度 基本方針

ミッションの達成を図る為、かつ2016年度の基本方針の実行検証を踏まえて、以下の事項を2017年の基本方針とする。

- ①動き出す個の支援の継続と、チームの力の強化を行っていき、チームインパクト、コレクティブインパクト等、それぞれの力をよき社会の実現に展開していく。またそれらにより、生まれた地域の新しい物語を紡ぎ、可視化していく。
- ②解像度を高めたビジョンの再設定と成果目標・インパクト評価の策定、2021年までのロードマップの策定を実施する。
- ③プロジェクトチームが責任感をもって、プロジェクトをマネジメントし成果につなげていく。

(4)2017年度事業計画

①特定非営利活動に係る事業

事業の種類(定款)	事業プログラム	事業内容(案)	備考 (1.実施日時、2.場所、3.事業パートナー)	自:自主事業 委:業務委託 補:補助金 助:助成金	成果指標 受益対象者の 範囲及び人数	予算額 (千円)
実践型 インター ンシップ 事業	実践型インターンシップ「GENBA CHALLENGE」	若者の力を取り入れて組織変革の加速	1.通年 2.企業3社 3.他	継続 自	3社 10名	1120
	宇大課題発見・解決インターンシップ	企業・行政から提示された課題に対してチームとなって解決に取り組むインターンシップ	1.6月～3月 2.宇都宮市内 3.宇都宮大学キャリア教育・就職支援センター	継続 委	5社 20名	425
	インターン準備プログラム	インターンに関心があるものの不安のある学生に対し、社会人スキルを学び、自身が持てるプログラム	1.年3チーム(1チーム6回) 2.宇都宮市内 3.他	新規 自	60名	30
起業・ 創業 ネット ワーク 事業	若者の社会をよくするスタートアッププログラム「IDEA→NEXT」	ブラッシュアップ合宿 ファイナルプレゼンテーション	1.通年 2.栃木県内 3.協賛企業等	継続 自	10名	719
	ソーシャルビジネスフォーラム ソーシャルビジネスセミナー ソーシャルビジネス留学 ワーク課題解決チーム型IDEA▶NEXT	社会課題解決の立ち向かう創造型人材の掘り起こしと育成	1.9月～12月 2.宇都宮市 3.宇都宮市産業政策課	継続 自 補	80名	1,700
	「起業の理論と実際」	宇都宮大学での起業の実際と理論の授業運営。	1.10月～ 2.宇都宮大学 3.宇都宮市産業政策課、宇都宮大学 キャリア教育・就職支援センター	継続 委	30名	2,000
中小企 業人材 育成事 業	地域中小企業の人材確保支援事業	短期インターンプログラム	1.通年 2.栃木県内 3.ワークエントリー	継続 委	20名	300
地域担 い手定 着事業	首都圏若手人材UIJターン事業	「はじまりのローカル コンパス」	1.通年(6月～) 2.栃木県・首都 圏 3.県地域振興課	継続 委	100名	5,800
		首都圏大学生生向けUIJターン	1.8月/2月 2.栃木県・首都圏 3.県地域振興課	新規 委	200名	2,000
	地域の担い手育成事業	那須烏山市地域おこし協力隊研修	1.10月～2月 2.栃木県・首都圏 3.須烏山市	継続 委	3名	1,242
		地域づくり人材育成	1.通年 2.栃木県 3.栃木県地域振興課	継続 委	50名	1,500
若者人 材育成	COC+連携事業	環境デザインセミナー/地域編集セミナー	1.夏期 2.栃木県 3.宇都宮大学COC+	新規 自	40名	200
	企業向け人材育成事業	組織内部での変革力を高める合宿型企業人材育成プログラム	1.8月～2月 2.栃木県 3.----	新規 自	15名	1,380
		宇大未来塾	1.9月～3月 2.栃木県内 3.宇大学長・理事	新規 委	20名	4,500
その他 の事業	各種プログラム開発・提供事業	とちぎ学生未来創造会議「とちぎ未来留学」	1.9月～11月 2.栃木県内 3.とちぎ学生未来創造会議	継続 委	30名	100

事業の種類 (定款)	事業プログラム	事業内容(案)	備考 (1.実施日時、2.場所、3.事業 パートナー)	自:自主事業 委:業務委託 補:補助金 助:助成金	成果指標 受益対象者 の範囲及び人 数	予算額 (千円)
② ソーシャル プロジェクト 支援事業	とちぎ手仕事支援プロジェクト FukuFuku	福島の手仕事商品の販路開拓 福島での人材交流	1. 通年 2. 栃木県・福島県 3.	継続 自	50名	870
	チーム支援事業	若者の力を取り入れた組織づくりへの指導、助言	1. 通年 2. 宇都宮市 3. とちぎVネット等	継続 自		600
	宇都宮市魅力発信事業	市民シティプロモーション支援/愉快ライター事業	1. 通年 2. 宇都宮市 3. 宇都宮市広報広聴課	継続 委		2,200
	企業CSRプログラム開発	企業のCSR活動、地域とのリレーション活動をコ ディネートする事業	1. 通年 2. 栃木県内 3.	新規 自		800
	YOUTH TIME(会員限定交流会)	会員間の相互交流と事業促進	1. 隔月 4回 2. 宇都宮市内	継続 自	80名	
	ベンチャーズ総合創業支援相談業務	起業創業の相談窓口での対応	1. 通年 (18回) 2. 宇都宮市 3. 宇都宮ベンチャーズ/宇都宮市産業 政策課	継続 委		240
⑤ 挑戦する 若者を支え る奨学金事 業	ホンデチャレンジ	読まなくなった古本を寄付して、若者を育む仕組み	1. 通年 2. 全国 3. バリユーブックス	継続 自	10,000冊	100
	gooddo	クリックやシェアで団体を応援する仕組み	1. 通年 2. 全国 3. ooddo	継続 自	---名	30
⑧ 情報発 信/出版事 業	地域を良くする企業と若者の物語	・若者チャレンジレポートの編集発行	1. 2回/年 発行	継続 自	---	
	情報発信	WEBサイト、SNS(FACEBOOK, Twitter, LINE@)、ソーシャルニュースの管理運営。	1. 通年	継続 自	60,000uu 180,000pv 2000いいね! 900フォロー	

(5) 運営体制

総会:

代表理事: 1名

理事: 11名

委員会(運営会員で構成): 4委員会

若者白書をつくろう委員会、若者の政治参加のための意識向上委員会、
広報委員会、会員サービス委員会

職員: 7名、うち常勤5名 非常勤2名(うち事業推進5名、事務総務2名)